

《第2回研修会 開催報告》

「わ」を作ろう！つながろう！お互いの障害を知ろう！Part 2

昨年に引き続き、市内の障がい活動をしている皆さんとの交流会です。今年は、数団体が行事と重なり、30人の参加でした。要約筆記の4名、手話通訳2名の協力を戴きました。

今回は、当会に本年入会された「相模原市オストミー協会」当事者の方と30年に渡って市内で当事者活動されている「くえびこ」から「脳性マヒ」の方の発表を戴きました、お話の内容をまとめてみました。

オストミー会長、丸山正巳様。オストミーとは、身体に便器をつけているということです。造設されたストーマー（人口肛門、人口膀胱）の所有者を「オストメイト」と言います。相模原市において、膀胱、直腸、機能障害手帳所持者（H20年4月1日）687名です。（膀胱123名・直腸493名・ダブル71名）50～70歳以上の方が90.4%を占めます。ストーマに成った原因は癌が多い。

災害時におけるストーマ装具の備蓄の必要性。（ストーマ装具に代用品は無い）障害者用トイレを一基でも多く設置される事。高齢化の進む中、現在出来ないヘルパーさんによる面板（装具）の交換が可能になることなど、今後、皆さんと一緒に活動し問題解決していくことを話された。最後に、ご自身の体験から、排便時残便感・鮮血等気になった時は検診を受ける事を重ねて話された。

脳性マヒ、生きる会（くえびこ）発表者（原田一様・上野千恵様・森田孝一様）始めに原田さんから、日頃の活動報告、30年に渡り中央区共和「くえびこ」を拠点に「自分らしい生き方を行政期間に伝えながら活動していきます。」障害者の生活を飾る会「では、月1回、障がい者施策に関する学習をしながら、毎年10月に」障がい者のデモ行進しながら、障がい者の生活の向上を図るため行政との話し合いをしています。

お三方のお話から脳性マヒについてまとめてみました。生まれて来る時、逆子・臍のうがまきついていたり等で仮死状態に成り、空気が脳に入らず脳性マヒやほかの障がいを発します。又、小さいころの風邪の高熱なども引き起こす原因に成ります。緊張が大きく、言語障がいも伴う事が多い。上野さんは、子供のころ出来た事が出来なくなってきたこと、緊張を普通の人で足をついた状態とにしているかな～等、緊張でお話するのも大変な中、緊張君（上野さんが命名）との折り合いの付け方を話してくれました。森田さんは、逆子で奇跡的に助かったよ！とご自身のお話をされました。見かけから誤解される事が多い事。例えば、電話や普段の会話ですが「ゆっくり話す必要があるか？」「理解力はあるので、普通に話して下さい。大丈夫！身体が緊張するだけです。」中でもJ.Rの人は偏見が多く、女性・車いす・言語障がいに対して横柄である。「横浜線障がい者の利用者連絡会」を作って話し合いをしています。

今回の発表者の皆さん、ウイットとユーモアに富んでいて生きるっていいなと感じさせてくれました。後半はグループでおしゃべり会。細々とつなげ、いつかは皆さんのハートで「相模原市の障がい者権利条例」など作れるといいな～と思います。

《第12回防災勉強会 開催報告》

まず、冒頭で、3月11日に発生した東北関東大震災で亡くなられた方々に心から哀悼の意を表すると共に避難されておられる方々にお見舞いを申し上げ、一日も早い復興が実現することをお祈り申し上げます。あのような大震災に備えて、私たちは防災勉強会を開催していますが、その防災勉強会の第12回目が去る1月26日（水）19時～21時までが開催されました。市側からは障害福祉課の田中担当課長、地域福祉課の佐藤副主幹及び安藤主査、危機管理室から伊藤担当課長が出席し、連協側からは鎮守会長

以下9名が、車いす友の会から1名、視力障害者協会から1名、聴覚障害者協会から1名、総員16名が出席しました。

今回のテーマは「災害時要援護者避難支援制度」のモデル地区試行の中間報告についてでした。

次のページへ続く